

医動物・食品中異物検査結果(令和2年度)

医動物担当では、人の健康を害する、または不快感を与える昆虫、ダニ、寄生虫等の試験・調査・研究を行っています。

その中の一つとして、各区福祉保健センター、各市場検査所、事業者などの依頼を受けて、昆虫類を中心に食品へ混入した異物の検査を行っています。令和2年度の食品中異物検査実績は4件でした。内訳は昆虫類2件(コウチュウ目)、その他の節足動物類1件(ダニ目)、その他の動物1件(マキガイ綱マイマイ目)でした。

検査結果の詳細は以下のとおりです。

相談内容・発生状況等	写真 (状態、体色、大きさ)	同定結果	生態・その他
購入した鶏肉を調理し、食べようとしたところ、幼虫を発見した。 (4月)	 幼虫、乳白色、3mm	タバコシバンムシ (コウチュウ目)	幼虫の食性は広く、被害食品の種類は100種をこえる。 パン、ビスケット、コーヒー、ココア、香辛料、豆類、乾果など多くの乾燥食品を加害する代表的な食品害虫である。
購入した羊の臓物(食肉加工品)をスープにし、食べたところ虫が出てきた。(1月)	 幼虫、乳白色、2.5mm	タバコシバンムシ (コウチュウ目)	
保存してあったお好み焼き粉でたこ焼きを作り食べたところ、体調不良になった。 (1月)	 白色半透明、約0.3mm	コナヒョウヒダニ (ダニ目)	室内塵中に普通に見られる。特に畳、絨毯を敷いた屋内に多く発生する。また、配合飼料、食品、医薬品などから発見されている。食性は、塵の中のダニの死骸、破片、人のフケなどである。
そうざいの内蓋に生きたナメクジが付着していた。 (6月)	 黒色、幼体、20mm	チャコウラナメクジ (マイマイ目)	住宅の庭や畑などにみられ、植物の葉、花や若芽、キノコや地衣類も好んで食べる。台所の残菜、骨、肉の残りもナメクジをひきつける。